観光立国は地域から

6ブロックの観光トピック

地域観光

■北海道・東北

北海道　サウナを巡るパスポート

北海道の帯広観光コンベンション協会は、「〝ととのい〟の聖地・十勝」をアピールする「十勝サ国（サウナ協和国）プロジェクト」を展開。域内11の施設で利用できる入浴パスポートを販売している。

パスポートはフィンランド式ロウリュが楽しめる11施設の中から4施設が利用できる日帰り入浴用。利用期間は10月1日から来年3月10日まで。料金3500円で、各施設のフロントや、とかち観光情報センターで販売している。

施設の一つ「アヴァント」（湯宿くったり温泉レイク・イン＝新得町）は、テントサウナで体を温めた後、凍った湖の穴の中に入り、ほてった体をクールダウンしてもらうもの。1月13日から3月12日までの実施で、料金は2時間平日2万円、土、日、休日2万2千円のところ、パスポート持参で10％引きになる。

「食文化、気温、景観など、サウナの本場フィンランドと十勝は共通点が多い。本場フィンランド式ロウリュや〝サ活〟を楽しめる施設が集結している。十勝ならではのサ活をお楽しみいただきたい」と同協会。

アヴァントのほかのサウナ施設は、サホロリゾートホテル（新得町）▽十勝エアポートスパそら（中札内村）▽十勝川温泉観月苑（音更町）▽十勝まきばの家（池田町）▽十勝ガーデンズホテル（帯広市）▽ひまわり温泉（同）▽プレミアホテル―CABIN―帯広（同）▽森のスパリゾート北海道ホテル（同）▽湯宿くったり温泉レイク・イン（新得町）▽5737コンナサウナ（帯広市）。

秋田県　冬季のコンテンツが充実

秋田県が冬季の観光コンテンツを充実させている。スキー場での樹氷観賞や、雪と戯れる動物たちの姿を見る「雪の動物園」など。

樹氷観賞は北秋田市の森吉山阿仁スキー場、ゴンドラ下車すぐの樹氷平で楽しめる。ゴンドラ山頂駅舎の降り場付近ではスノーシュー、かんじきの無料貸し出しを行っている。キャビン付き圧雪車で行く予約制のナイトツアー「夜の樹氷観賞会」も人気。1月上旬から3月下旬まで。

秋田市の大森山動物園では、冬ならではの動物たちの様子を観察できる、雪の動物園限定イベントを開催。ユキヒョウやレッサーパンダなどの動物が雪と戯れ、走り回る姿を見られる。カピバラが気持ちよさそうに湯に漬かる様子が見られる「カピバラの湯っこ」や、雪の動物園限定イベントのトナカイやポニーの園内散歩もおすすめという。1月6日から2月25日の土、日、祝日。

県内ではさまざまな小正月行事も行われる。「大館アメッコ市」（大館市）は、約400年前から続く民俗行事で毎年2月第2土曜日とその翌日に開催。この日にアメを食べると風邪をひかないといわれており、両日は市内中心の「おおまちハチ公通り」に多くのアメ売り屋台が軒を連ねる。

■関東

栃木県　11月2日に夜景観光サミット

栃木県足利市と夜景観光コンベンション・ビューローは11月2日、あしかがフラワーパークプラザで、「夜景観光サミット2023in足利」を開催する。同サミットは15回目で、同市での開催は2017年以来2回目。共催は市観光協会、足利商工会議所。

自治体など約100団体、一般を含めた400人以上の参加を見込んでいる。シンポジウムや夜景観光の成功事例発表、日本夜景遺産認定授与式、インターナショナルイルミネーションアワードの発表・授与式が行われる予定。サミット終了後には市内夜景ツアーを実施する。

あしかがフラワーパークは同ビューローの「日本三大イルミネーション」、足利織姫神社から望む街の夜景が「日本夜景遺産」に認定されている。サミットを通じて、夜景観光のまちという市のブランドイメージの向上を図り、観光誘客を促進させたい意向だ。

サミットに関連して、10月28日～11月12日には、史跡・足利学校や鑁阿寺（ばんなじ）、足利織姫神社を会場にした夜景イベント「足利灯（あか）り物語」が開催される。

夜景が有名なあしかがフラワーパーク

千葉県　ポニーと包括連携協定　長生村

千葉県唯一の村、長生村とポニーキャニオンは、シティ・移住プロモーションや観光振興、SDGs（持続可能な開発目標）推進に関して相互連携を強化することで合意、3日、包括連携協定を締結した。

取り組みの一環として、ポニーキャニオンが制作した村の新作プロモーション動画「長生折々（ちょうせいおりおり）」を公開。

第1弾は村に実際に移住した3組の実話をもとにした動画で、移住して自分の進む未来を見つけた男性が主人公の「未来編」。次いで「夢編」「家族編」を順次公開する。「村のシティプロモーションとして移住・定住促進を図る」としている。

長生村は九十九里浜に面し、稲作や野菜栽培、酪農などが盛ん。九十九里浜での海水浴のほか、夏の観光地曳網など村の特色を生かしたイベントも行っている。

■信越・東海・北陸

静岡県　食と温泉文化フォーラム

静岡県は11月1日、同県が誇る食文化と温泉文化を国内外に発信する「ふじのくに食と温泉文化フォーラム」を沼津市で開催する。国内外の人たちにPRし、観光誘客を図るとともに、交流人口の拡大や地域の魅力を再発見する機会とする。

フォーラムの前半は、富士・箱根・伊豆国際学会会長の五條堀孝氏による基調講演「地域DNAから見たポストウェルネス～食と温泉の再定義と未来への挑戦～」を行う。

後半のトークセッションでは、「食のバトンをつなぎ、新たな価値を生み出す」をテーマに、日本の食文化の守り育て方を探る。温泉に関するシンポジウムも開催され、日本と異なるスタイルで温泉が活用されているドイツ、イタリア、ハンガリーの温泉のプロフェッショナルから見た日本の温泉の可能性を発信する。

三重県　忍者の歴史や文化を学ぶ

リアル忍者の聖地、三重県伊賀市と滋賀県甲賀市。忍びの里伊賀甲賀忍者協議会は11月23日、忍者の歴史や文化などを学び、体感するウオーキングイベント「忍者百人衆　江戸で伊賀／甲賀の気配を探れ（その七）」を東京都内で4年ぶりに開催する。

参加者全員が忍者衣装を身にまとい、上野恩賜公園からスタートし、忍者忍術研究の第一人者である三重大学人文学部の山田雄司教授の案内で、伊賀・甲賀ゆかりの史跡を歩きながら探索する。

ウオーキングには伊賀市長と甲賀市長も参加。出陣式では両市長による「伊賀VS甲賀」の手裏剣打ち対決も行う。

新潟県　「SAKEフェア」を開催

「新潟SAKEフェア2023」が11月3日に新潟市中央区で開催される。新潟県内の観光や物産を情報発信している新潟県PRキャラクター（非公認）ニイガタ姉さんがプロデュースする県内の日本酒、ビール、ワインなどの「SAKE」を堪能できるイベント。

主催は同フェア実行委員会。入場は無料だが、試飲は前売券2千円、当日券2500円のチケット制。当日追加券（500円から）を購入すればおかわりも可能。フードブースも出店される。

同時開催される「ニイガタ姉さんフェスタ」では、アーティストによる演奏やタレントによるトークショーなどステージイベントも実施する。

ポスター

■関西

京都府　「二条城まつり」12月まで

京都市は27日から、文化庁移転を記念した秋の特別事業として「二条城まつり2023」を開催する。12月3日まで。

目玉は、二条城が紅葉のライトアップと光のデジタルアートに包まれる「NAKED FLOWERS 秋 世界遺産・二条城」。ネイキッド（東京都渋谷区）が制作に携わり、重要文化財の唐門や国宝の二の丸御殿、内堀などをプロジェクションマッピングで彩る。

来場者がLEDライトを身に着け、ウェアラブルアートとしてアートの一部になれる体験型プロジェクションマッピング（別途有料）や、華道家元池坊（京都市）のいけばな作品が展示され、秋の夜長を心行くまで堪能できる。

一般拝観時間は城内を巡り同城について学ぶ「二条城クイズラリー」、京都の名産品をそろえる店舗が集う「京の名産品展」、二の丸御殿障壁画の原画公開などを実施。

一般拝観は午前8時45分から午後4時まで、ライトアップは午後6時から午後9時まで。ライトアップ料金は26日までの早割で一般1600円から。

重要文化財「唐門」のプロジェクションマッピング

滋賀県　高島市でスタンプラリー

滋賀プラス・サイクル推進協議会は21日から、高島市で「ビワイチサイクリングナビーShiga Trip―」アプリを活用した琵琶湖をめぐるデジタルスタンプラリーを開催している。11月20日まで。

アプリをダウンロードし、指定されたスポットを巡ると1スポットにつき1ポイントを獲得できる。3ポイント以上たまるとA5ランクの近江牛やうなぎ茶漬けなど、同市の特産品が当たる抽選に応募可能。

マキノ高原やもみじ池、道の駅マキノ追坂峠などサイクリストに人気の12スポットが対象で、好きな場所からスタートできる。11月下旬に見頃を迎え、延長約2・4㌔にわたる約5千本のメタセコイア並木がレンガ色に染まる景色も見逃せない。

琵琶湖一周サイクリングコース（ビワイチ）やロングライド、レンタサイクルで気軽に観光する人にもおすすめで、心地よい秋風を肌で感じながら同市の自然を楽しめる。

自転車はJR近江今津駅、近江高島駅などの観光案内所でレンタルでき、E―bikeを除き他の窓口で乗り捨てが可能。

■中国・四国

高松　新施設開業へ、散策も魅力

高松市の高松港エリアに新たな施設の建設が進められている。JR高松駅北側に新たな駅ビル「TAKAMATSU ORNE（タカマツオルネ）」が2024年3月に開業予定。さらに、スポーツやコンサート、展示会などに利用できる多目的アリーナ「あなぶきアリーナ香川（香川県立アリーナ）」が25年3月にオープンする予定。四国・香川の玄関口、にぎわい・交流の拠点に新たな魅力が加わる。

タカマツオルネは、敷地面積が約5200平方㍍。延べ床面積は商業棟が約1万70平方㍍、駐車場棟が約5460平方㍍。商業棟では地上4階で約70店舗が入店する予定。建物の外観は瀬戸内海の穏やかな海のゆらぎをイメージし、外壁には島々を表現する。4月に決定した施設の名称は、西日本で「いる」を「おる」と言うことに由来している。

あなぶきアリーナ香川は、瀬戸内海、街の景観にマッチした1枚の大きな屋根でメインアリーナ、サブアリーナ、武道施設をつなぐ外観が特徴。メインアリーナの固定席は中四国最大級の5024席で、イベントの形態に合わせて移動式可動席を配置でき、最大収容人数は1万人。室内競技の国際大会やトップアーティストのコンサートから、国際会議、展示会などのMICEまで、スポーツ、文化、ビジネスの交流拠点となる。

高松港エリアは、これらの新施設を交えて、歴史や文化を体感できるスポットの散策が魅力だ。

国指定史跡の「高松城跡　玉藻公園」は、かつての讃岐国領主・生駒家、高松藩主・松平家の居城だった高松城の跡地を整備した公園。高松城は、瀬戸内海の海水を引き込み、日本三大水城の一つとして知られ、園内には月見櫓、披雲閣などの国の重要文化財も多い。22年には、戦時中の空襲で焼失した桜御門が再建された。

香川県立ミュージアムは、歴史博物館と美術館の機能を併せ持つ総合施設。香川県の歴史を大型の展示物や映像で紹介しているほか、弘法大師空海の資料、高松松平家の資料、イサム・ノグチなど香川にゆかりのある作家の美術作品などを展示している。

さらに足を延ばせば、国指定の特別名勝「栗林公園」がある。広さ約75㌶に及ぶ国内最大の文化財庭園。紫雲山を背景として、六つの池、13の築山、約1400本の松、奇岩・怪石などが巧みに配置されている。公園内の南湖は和船で遊覧できる。

TAKAMATSU ORNE（タカマツ オルネ）の外観イメージ

■九州・沖縄

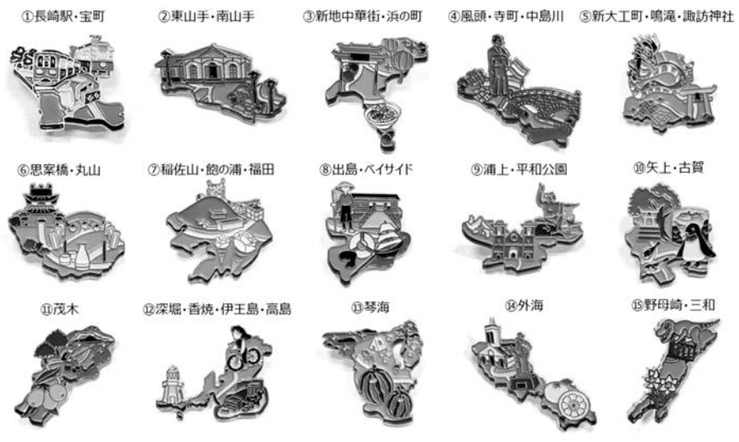
長崎市　観光エリアのピンバッジ販売

地図情報の調査や制作などを行うゼンリン（福岡県北九州市）は、同社が提供する長崎観光サービス「STLOCAL（ストローカル）」を展開している観光エリアのピンバッジを、6日から県内の「STLOCAL」ショップで販売している。長崎市の各エリアの魅力を各ピンバッジに詰め込んだ。

同社は、日本全国の狭域地域、「マイクロエリア」が抱える課題に対して、「移動情報」と「地図情報」を活用して解決し、あらゆる地域の活性化に貢献する「ゼンリンマイクロMaaSソリューション」の提供に取り組んでいる。その一環として、長崎県でスマートフォンアプリ&観光情報Webサイト「STLOCAL」を提供し、同サイトで主道の観光ルートから再訪したくなる路地裏まで幅広い観光情報を発信している。スマートフォンアプリでは、旅の計画から公共交通、観光施設、体験アクティビティの電子チケットを購入できる。

今回販売するSTLOCALピンバッジは、同サイト内で情報を提供している長崎市内を15エリアに分割し、各エリアを象徴する観光地、名物などをデザインしたもの。「後で長崎の旅を思い出し、また長崎に再訪したくなるきっかけになればという思いから商品を展開している」と同社。

価格は1100円（消費税込み）で、6日から「①長崎駅・宝町」「⑧出島・ベイサイド」など6エリアを販売し、その他エリアは順次販売予定。STLOCALショップ「長崎駅前店」「長崎新地店」「長崎空港店」で販売している。STLOCALの詳細はhttps://stlocal.net/、ショップの商品ラインアップはhttps://stlocal.net/goods_lineup/。



長崎市内各エリアが、かわいらしいイラストとともに各ピンバッジにデザインされている